

白血球数の増加と心房細動に関連あり～日本の研究から

心房細動の発症率が近年上昇している。また、白血球数は全身の炎症の指標であり、心臓血管病リスクの上昇と関連する。本研究では、吹田研究のデータを用い、日本人における白血球数と心房細動リスクとの関連について前向きコホート研究を実施し検討した。

対象は 30-84 歳で試験開始時に心房細動のない 6,884 例とした。中央値で 14.6 年の追跡期間中に 312 件の心房細動が診断された。白血球数の最低五分位と比較し、最高五分位では心房細動リスクのハザード比が 1.57 となり、白血球数が最も高い群でのみ心房細動リスクが有意に高かった。また、その関連は女性のほうが男性よりも強く（ハザード比は女性で 2.16、男性で 1.55）、喫煙者のほうが非喫煙者よりも強かった（ハザード比はそれぞれ 4.66、1.61）。

したがって、日本人において白血球数が多いと心臓細動リスクが上昇し、さらに女性、喫煙者でよりリスクが高まることが示された。

出典：Circulation Journal. 2022 Oct 25 ISSN: 1347-4820.